

「いわてに人財を呼び込むための情報交換会」実施要領

1 目的

市町村担当職員や地域おこし協力隊等を対象に、移住・定住等の先進的な事例紹介や情報共有を行うことにより、移住を希望する方が安心して本県での生活を志向することができる環境を整え、関係人口の拡大や移住・定住の促進を図ることを目的とする。

2 開催概要

- (1) 日 時 令和元年 12 月 20 日（金） 13 時 30 分～16 時 30 分（受付開始 13 時）
- (2) 会 場 花巻市定住交流センターなはんプラザ 2 階 ギャラリー
（花巻市大通一丁目 2 番 21 号）
- (3) 主 催 県南広域振興局
- (4) 共 催 花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町（予定）
- (5) 参加予定者 管内市町担当者（地方創生、移住・定住交流促進、コミュニティ支援、地域おこし協力隊担当等）、地域おこし協力隊、県関係部局、中間支援 N P O、地域の維持・活性化に係る取組を行っている団体 等

3 開催内容（予定）

時 間	内 容	備 考
13:30～	開会	
13:30～13:35	(5) 開会の挨拶	県南広域振興局参事兼経営企画部長 鈴木 一史
13:35～14:40	(65) 講演	面白法人カヤック 長田 拓 様 『北海道下川町の移住定住促進の取組み』
	(60) (講演)	
	(5) (質疑応答)	
14:40～14:50	(10) 休憩	
14:50～15:45	(55) 事例報告	宮城県栗原市企画部 定住戦略室 定住戦略係 係長 鈴木 敬 様 『栗原市の移住定住施策と移住定住支援員の役割』
	(50) (事例報告)	
	(5) (質疑応答)	
15:45～16:30	(45) 意見交換	講師・事例報告者との間で質疑応答、意見交換
	(10) (最近の活動状況)	いわて暮らしサポートセンター 移住コンシェルジュ 三浦 身知子 様
	(35) (意見交換)	
16:30	閉会	
16:30～17:30	(移動)	(交流会会場へ移動)
17:30～	懇親会	参加希望者のみ [会場] Lit work place (リットワークプレイス) (花巻市大通 1-7-40) [会費] 1 人 4,000 円

4 講師及び事例発表者プロフィール

○『北海道下川町の移住定住促進の取組み』

面白法人カヤック 長田 拓 (ながた たく) 氏

- ・2009年～ 総合デベロッパーの森ビル（株）に入社。タウンマネジメント事業部で六本木ヒルズのまちづくりに携わる。
- ・2013年～ NPO法人しもかわ観光協会の事務局長を務める。
- ・2016年～ 下川町の総合戦略推進母体となる下川町産業活性化支援機構の立ち上げ責任者として、移住促進、企業誘致、企業連携、起業家育成などの業務に関わる。
- ・2019年～ 面白法人カヤックの一員となり、全国のまちづくりプロジェクトに携わりながら下川町の移住定住促進や起業家支援にアドバイザーとして関わる。

北海道下川町—人口約3,300人。北海道北部に位置する町。

2017年度の第1回「ジャパンSDGsアワード」総理大臣賞受賞、2018年度の移住スカウトWebサイト「SMOUT」SMOUTアワードを受賞。

下川町産業活性化支援機構タウンプロモーション推進部において、移住促進、人財バンク、ローカルベンチャー育成に取り組む。タウンプロモーション推進部が立ち上がった2年目には、下川町での直近20年間の中で過去最高の社会動態を記録し、また、北海道179自治体中トップ10の社会動態を記録した。

○『栗原市の移住定住施策定と移住定住支援員の役割』

宮城県栗原市企画部 定住戦略室 係長 鈴木 敬 (すずき けい) 氏

- ・1993年4月 旧志波姫町役場入庁
- ・2005年4月 現在の栗原市に合併
企画課、財政課、秘書係長などを担当
- ・2017年4月～ 現職

宮城県栗原市—人口約67,000人。宮城県北部に位置する市。

「2019年版『住みたい田舎』ベストランキング」で東北1位、全国でも9位にランクイン。

2013年7月、深刻な人口減に対応しようと庁内に定住促進室を組織し、生活情報の発信や移住者同士のネットワークづくりに取り組む。